

発行 令和7年9月
発行者 戸塚区役所区政推進課
〒244-0003
横浜市戸塚区戸塚町16-17
TEL: 045-866-8326
編集 株式会社山手総合計画研究所
デザイン 下町編集室 OKASHI



戸塚のシンボルマーク
「と」の文字が空を舞う鳥の姿で
表現されています。
1988(昭和63)年に決まりました。



戸塚区の歴史



地域を知ろう！
歴史を知ろう！





「戸塚」ってどんなところ？

現在では、28万人以上の人人が住む横浜市戸塚区。
地域にはどんな歴史があるのかな？

戸塚が今の姿になるまでには、様々な歴史がありました。
この冊子が地域で積み重ねてきた歴史を知る
きっかけになればうれしいな！



少年探偵 「かつと」くん

ぼくは自分の住んでいる戸塚が大好き！
時間をさかのぼって戸塚の歴史を調べることにはまっているよ。
知れば知るほど戸塚のことが好きになるんだ。ぼくと一緒に「へえ～！」と思う
ような戸塚の歴史を探してみよう！



戸塚区のマスコット 「ウナシー」

好きな食べ物: 浜なし



ウナシーのこと
もっと知りたい！

目次

- 1~2 戸塚の歴史の探し方
3~6 戸塚の今昔物語
戸塚のなりたちを知る

- 7~12 身近な地域の歴史発見マップ
13~24 大調査！○○×歴史
25~30 ちょっと昔の戸塚のおはなし

戸塚の歴史の探し方

歩いて探してみよう！

住んでる地域にはどんな歴史があるのかな？歩きながら探してみよう。



話を聞いてみよう！

戸塚の歴史を身近な人や地域の人に聞いてみましょう！この冊子でも、地域の方々のお話を紹介しています。



戸塚区

身近な地域の歴史を聞く

本やインターネットで見てみよう！

図書館には、様々な地域の歴史の資料がそろっています。最近は、インターネットでも「オープンデータ」といって、いろいろな情報・資料が公開されています。



戸塚区

とつかフォトコレクション



横浜市立図書館 デジタルアーカイブ
都市横浜の記憶

学んだことを周りに話してみよう！

「へえ～」「そうなんだ！」と感じることもいっぱいあるはず！

学んだことを多くの人に伝えることで、自分の知識もアップデートしましょう。



P. 7~12 「身近な地域の歴史発見マップ」

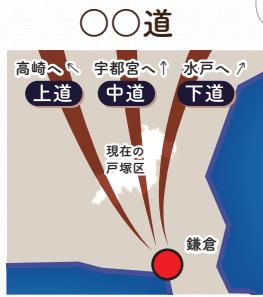


戸塚の今昔物語

戸塚のなりたちを知る

戸塚のできごと

鎌倉につながる道のことを
何というかな？



幕府が置かれた鎌倉にむけて道が
集まっています。今でも歩けるよ！

詳しくは 19 ページへ

鎌倉・室町・安土桃山時代

江戸時代 1603-1867

社会・横浜のできごと

「宿駅伝馬制度」とは？

街道沿いに「宿場」という拠点
をつくり、その宿場から宿場へ
リレーのように荷物などを運ぶ
仕組みのことです。



戸塚を通って江戸
と京都を結ぶ道を何と
いうかな？



詳しくは 13 ページへ

明治時代になると鎌倉郡
になりました。今の戸塚
消防署のところに鎌倉郡
戸塚町役場がありました。

1960 年代の戸塚区役所 ▶



とつかフォトコレクション

1887 明治 20 戸塚駅開業 (東海道線開通)

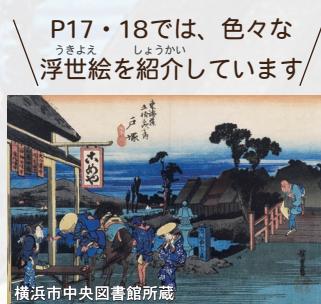
1878 明治 11 鎌倉駅開業 (現戸塚小学校)

(東海道線開通)

1873 明治 6 富塚学舎 (現戸塚小学校)

開校

1856 安政 3 柏尾川に桜植樹



1833 頃 天保 4 頃 初代 広重が東海道五十三次の
戸塚の浮世絵を制作

明治 1868-1912

1872 明治 5 宿駅伝馬制度 廃止
1868 明治元 明治政府成立

1859 安政 6 横浜開港

1877 明治 10 新橋～横浜間に鉄道開通

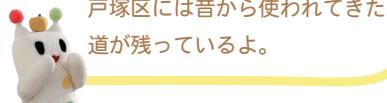
1889 明治 22 「横浜市」誕生

身近な地域の歴史 発見マップ

凡例：区内の様々な古道

- 東海道
- 鎌倉道
- 大山道

戸塚区には昔から使われてきた道が残っているよ。



【東海道】江戸時代、江戸（現在の東京）と京都を結ぶために作られた街道です。⇒P13

【鎌倉道】鎌倉時代、幕府が置かれた鎌倉と各地を結ぶために使われた道のことです。⇒P19

3 上矢部町富士山古墳
出土した埴輪は横浜市歴史博物館（都筑区）で見ることができます。



4 踊場駅
真夜中に手ぬぐいを被った猫たちが踊っていたという伝説が「踊場」の由来です。駅に猫のデザインがたくさんあります。


**1 東戸塚駅周辺のまちづくり**

1980（昭和55）年、地域の人たちの強い要望で駅ができました。

**明治時代****5 清水谷戸トンネル**

明治時代に作られた現役として一番古い鉄道トンネルです。

**6****境木立場**

「立場」とは街道沿いにある休憩場所のことです。宿場から遠いところや難所に茶屋などが設けられました。

**2 かもめ橋**

戸塚区は昔からの工場がたくさんあります。橋の名前の由来は、近所にある「かもめプロペラ」です。

**古墳時代****2****3****8****品濃一里塚**

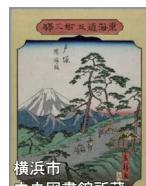
道の両脇に小さな山があるよ。どんな役割を果たしていたのかな？⇒P15

江戸時代

東海道から分岐する「柏尾通り大山道」を利用して大山参りに行く人もたくさんいました。

**江戸時代****7 焼餅坂**

焼餅で有名な茶屋があったため「焼餅坂」という名前になったと言われています。



▲東海道五拾三駅
六 戸塚 焼餅坂
立祥（二代広重）

歴史サインを探してみてね！
東海道沿いに設置しているよ。



1 戸塚駅西口の発展

現在のJR戸塚駅の乗車客数は1日平均約10万人で、JR線内では市内2位です。

開業当初は西口しかありませんでした。



▲明治・大正の頃の戸塚駅西口の様子 ▲戸塚駅西口の様子(1964年)



戸塚駅と区役所をつなぐ地下通路には、戸塚を描いた浮世絵などのパネルが展示されています。



2 踏切がないのに線路にかかる歩行者の通路に「大踏切デッキ」という名前がついているよ。なぜだろう? ⇒P26



「富塚」は戸塚の名前の由来の1つと言われています。

5 富塚八幡宮



江戸時代

6 上方見付跡



凡例: 区内の様々な古道

東海道
鎌倉道

2

江戸方見付跡

「戸塚宿」の江戸に近い方の入口でした。



3

江戸時代の浮世絵に「左りかまくら道」と彫られている石碑が!

今もあるのかな? ⇒P19



3

提供: 坂本写真

昭和初期には競馬場がありにぎわいました。

4 戸塚駅東口の発展



1937(昭和12)年、戸塚競馬場の観客のために東口ができました。



浮世絵風の箱根駅伝が描かれたマンホールがあるよ。さがしてみよう!



7



柏尾川の桜並木は、昭和初期からの桜の名所です。



江戸時代に宿場として栄えた戸塚宿

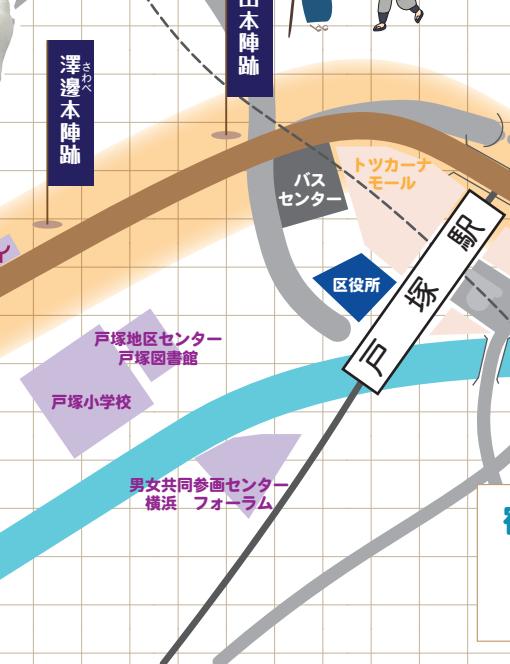
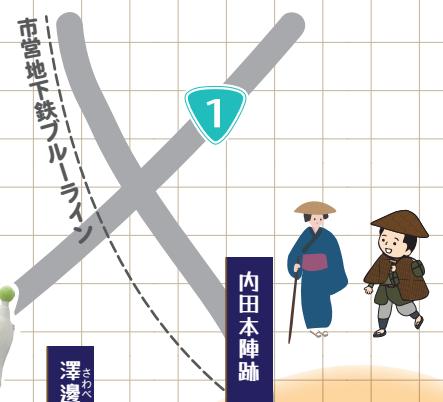
江戸時代、徳川家康の命によって江戸（東京・日本橋）から京都（三条大橋）を結ぶ「東海道」が整備されました。東海道には、53の「宿場」と呼ばれる街道の拠点がつくられたので、「東海道五十三次」と言われています。宿場の最も大切な役割は、幕府の仕事で遠くへ行く人のために人と馬を用意したり、宿場から宿場へリレーのように荷物を運んだりすることでした。

※大坂までの4つの宿場を加えて、「五十七次」と言われることもあります。

見付 宿場の入口を示す見張り場所。江戸に近い方は「江戸方見付」、京都に近い方は「上方見付」と呼びました。

一般の旅人は本陣ではなく、宿場の中の旅籠などに泊まっていたよ。

1840年頃には宿泊施設である旅籠が75軒もあって、五十三次の宿場の中で10番目に多かったらしいよ。



宿場ってなんだろう？

戸塚宿は江戸日本橋から数えて5番目の宿場です。江戸から10里半（約42km）の場所にあったので、朝に江戸を出発した旅人の最初の宿泊地としてにぎわいました。

江戸から京都までは約492km！

当時の人は2週間くらいかけて歩いたらしいよ！

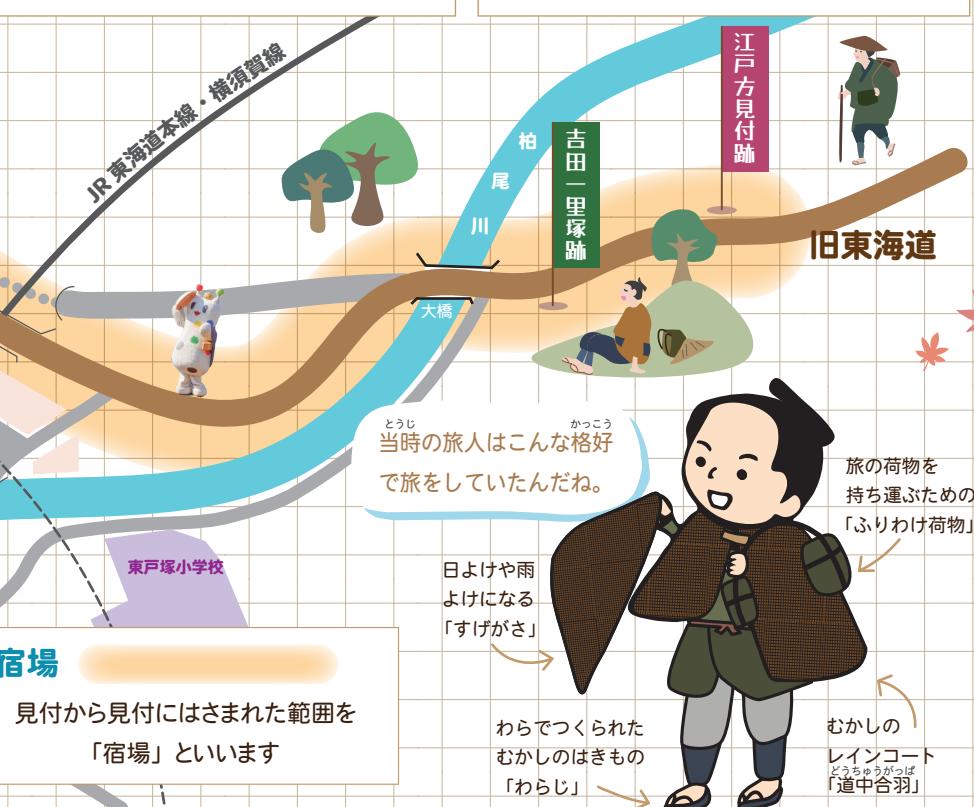
1日平均約35kmも歩いていたんだね。

旧東海道戸塚宿の歴史を歩く散策マップ▶



本陣 参勤交代の大名や天皇のお使い（勅使）など身分の高い人の宿泊場所。戸塚宿には本陣が2つありました。

一里塚 街道の一里（約4km）ごとにあり、距離の目安となるほか、木陰で休むこともできました。





むかし おもかげ
昔の面影を探してみよう！

江戸時代の東海道の面影はどこに残っている！？

江戸時代の様子がそのまま残っているところはあまり多くはありませんが、むかしの雰囲気を感じることができる場所があります。

【品濃一里塚】

江戸から9番目の一里塚で、神奈川県内では唯一ほぼ原型で残っており、県の指定史跡になっています。

旧東海道をはさんで道の両側に二つの塚があります。

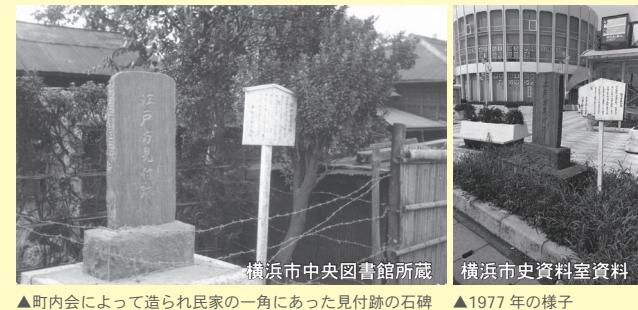


一里塚に木が植えられているのは、家康が「ええ木にせい（良い木にしなさい）」と言ったのを聞き間違えたからなんだって！

【江戸方見付跡】

戸塚宿の江戸（東京）側には、「江戸方見付」がありました。宿場の役人は参勤交代の大名らをここで出迎えました。

大きな藩の大名行列は3000人ほどになることもあり、見付の前で隊列を整えてから宿場に入つたんだって！



2025年▶

【澤邊本陣跡】

戸塚宿にあった2つの本陣のひとつで、100人が泊まれる広さだったと言われています。



▲昭和40年代の澤邊本陣跡



▲家茂が戸塚を訪れている様子と言われている浮世絵

【富塚八幡宮】

平安後期に創建された地域の中心となる神社です。「富塚」は「戸塚」の語源とも言われています。

宿場町として栄えた戸塚には多くの文化人も立ち寄りました。松尾芭蕉の句碑も、富塚八幡宮をはじめ区内3か所に建立されています。



▲古絵葉書にもなっていた富塚八幡宮



「鎌倉をいきて出けむは松魚 (かつお)」

▲芭蕉の句碑

【上方見付跡】

戸塚宿の京都側の出入口です。現在は道の両側に1.5mほどの石の囲いがあり、昔と同じように京に向かって左に松の木、右に楓の木が植えられています。



「上方」ってなに？



てんのう 天皇が住んでいた京都を「上方」といったんだよ。





昔の面影を探してみよう！

浮世絵でみる戸塚の今と昔

①大橋

柏尾川をわたる大橋周辺が題材です。この浮世絵は好評のため何度も増刷され、版木がすり減ってしまったため、構図を変更した再刻版もつくられました。



▲「東海道五拾三次之内 戸塚 元町別道」初代広重▼

2つの絵で、違うところがたくさんありますぞ！



当時は長さ約18m、幅約5mの板橋だったと言われているよ。現在の大橋の長さは約50mなので、1/3くらいの長さだったんだね！



背景が見えなくなっている

背景の山の大きさが変わっている

屋根の傾きがゆるやかになっている



浮世絵の位置

江戸時代までは国境があったんだね。



②境木立場

昔の武蔵国と相模国との境には、境界を示す標柱が建てられ、「境木立場」と呼ばれました。現在は復元された標柱が建っています。



境木立場は、西側に富士山、東側に江戸湾が見える名所だったんだって！



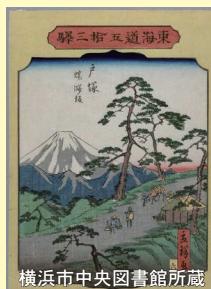
▲「東海名所改正道中記 六 境木の立場」(三代)



▲復元された標柱

③焼餅坂

浮世絵では、松並木が続く焼餅坂を手前に、富士山を遠くに望む構図が採られています。焼餅坂の名前は、坂のそばに茶店があり、焼餅を売っていたことが由来といわれています。



▲「東海道五拾三駅 六 戸塚 焼餅坂」立祥 (二代広重)



▲松並木が植えられている焼餅坂 (2025年)

④八坂神社



▲浮世絵に残る八坂神社と高札場 (国長)



▲2025年

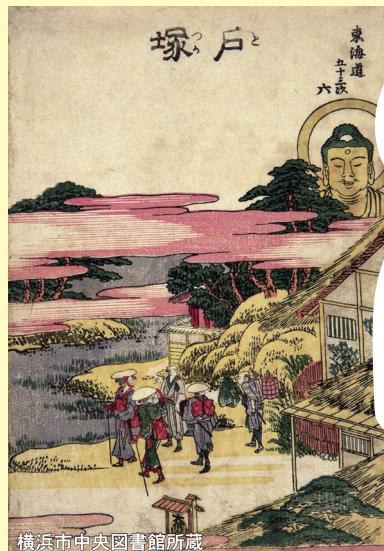
通称「お天王さま」と呼び親しまれています。神社の横には、「高札場」があり幕府や領主が定めた掲示などを掲示していました。

戸塚の夏の伝統行事
「お札まき」(P.21)が
行われているよ。



2 東海道より古い道！鎌倉道

1180年頃、鎌倉幕府が開かれると、鎌倉と関東各地の御家人の領地を結ぶ重要な道路として「鎌倉道」が発達しました。その後、旅人などが使う道の中にも「鎌倉道」と呼ばれるようになったものもあります。



東海道を描いた浮世絵に「左りかまくら道」と記された道標が描かれています。

近くの妙秀寺に浮世絵と同じような道標が残っています。

妙秀寺に残る道標▶



▲広重の大橋 (P.17) の浮世絵に描かれた道標

「戸塚」というタイトルの浮世絵の右奥に大仏が描かれているね。鎌倉の大仏かな？

江戸時代、庶民の間で寺社へのお参りが流行したんだよ。東海道の戸塚宿から鎌倉道(吉田道)をたどって、多くの人が鎌倉へお参りに行ったりらしいよ。

鎌倉道
(上道)



鎌倉道を歩いてみたい！
それぞれの道を詳しく知りたい！
という方はこちら



戸塚の古道
鎌倉道の歴史を歩く
散策マップ▶



▲1974(昭和49)年



▲2024(令和6)年

たくさんの方が大きなわらじを運んでいるよ！これは何だろう？



吉田道沿いには「南谷戸の大わらじ」があります。このあたりでは、昔から地域や旅人の無事を祈ってわらじを奉納するならわしがありました。大正初期から、現在のように大きなわらじを奉納するようになりました。

大わらじの保存会
(南谷戸和楽路会)
根本さんのお話



保存会では3～4年に一度、大わらじをつくりかけ替えています。大わらじは全長3.5m、両足で200Kgもあるんですよ。昔は地域に田んぼがたくさんあったけど、今はわらを集めるのも大変！大わらじを次の時代につないでいくために活動しています。



ぜんぶん
全編はこちら

3 大調査！まつり × 歴史 戸塚歳時記

八坂神社のお札まき

毎年7月14日に開催される「お札まき」では、女装した男性たちが歌いながらまちを練り歩き、厄除けのお札をまきます。

江戸時代中期から300年以上続くお祭りです。

一説によると、子どもが病気にかかるないよう母親が自らの着物を踊り手に託したことが由来だよ。



▲八坂神社祭礼の様子（1963年）



▲近年のお札まきの様子

お札まきの音頭取りを40年間務めた 神崎さんのお話



お札まき当日は「お札まき連中」約15名で2時間ほどかけて町内を練り歩きます。「サアこい子ども！」で始まる音頭は時代によって少しずつ変わりながら、ずっと歌い継がれてきたのでしょうね。お祭りは地域のつながりあってのものです。私も40年間務めた「音頭取り」の大役を次の世代に引き継ぐことができ、ほっとしています。



提供：神崎征美さん
▲お札まきの「音頭取り」



提供：神崎征美さん
▲戦前のお札まきの様子



4 大調査！水辺 × 歴史 柏尾川の桜並木～時を超えた景色、未来へつなぐ

柏尾川の桜並木は江戸後期に植えられたことが始まりとされ、昭和初期には関東有数の桜の名所になりました。戦争や堤防工事、樹木の老齢化などの危機を乗り越えながら現在につながっています。



▲古絵葉書になっている柏尾川の桜



▲昭和初期の舟遊びの様子



▲柏尾川の氾濫
(戸塚小学校前・昭和50年代)



昔から戸塚の
シンボルなんだね

みんなに親しまれてきた柏尾川は、
氾濫も多い川だったよ



戸塚区制60周年を記念し、区の花「桜」を制定しました。デザインマークは柏尾川沿いの桜を表しています。



桜並木を未来に
つなぐ取組を
進めています。
柏尾川桜並木保全・再生事業▶



5 大調査！みどり×歴史

緑豊かな戸塚の原風景



戸塚区には、自治会・町内会、公園、バス停などの名前に「やと」という言葉がついているところがあるね。「やと」って何だろう？



▲古絵葉書に写る大正村（当時）の農村風景と富士山（現在の戸塚区大正地区）



横浜のブランド梨「浜なし」もつくられています



「谷戸」とは、コの字型の丘に囲まれた地形のことです。戸塚区は柏尾川の流域に位置していて、柏尾川に集まる支流のひとつひとつに谷戸が形成されています。江戸時代の浮世絵にも谷戸の姿が描かれています。

▲五十三次名所図会 六 戸塚
山道より不二眺望 広重（初代）

▼舞岡公園内の丘に囲まれた
谷戸の地形と農業風景

小谷戸の里の古民家▼
(舞岡公園)



昔は多くの農地が広がり、野菜や米などを作っていました。

しかし、宅地開発や高速道路による物流の発達などを背景に農業も変化し、現在は野菜や果物や花、畜産などが盛んです。

横浜のブランド梨「浜なし」もつくられています

こやと 小谷戸
おもてやと 面谷戸
やとやべ 谷戸矢部
などなど

6 大調査！産業×歴史

戸塚のものづくりの歴史



▲戸塚駅周辺の工場や変電所（1946年（昭和21年））

戸塚変電所に多くの送電線が集まっているね。

横浜市は戸塚の工場地帯を「工業集積地域」というものに指定していて、現在も大きな工場や研究所が集まっています。

変電所がそばにあったことも工場の立地に有利だったと言われているよ。

1930年代になると戸塚に工場がたくさんつくれました。第2次世界大戦中は、戦争に必要なものの生産が拡大し、京浜工業地帯だけでは土地が足りなくなつたため、川沿いに開けた土地があった戸塚にも工場が増えました。



▲名瀬町付近の航空写真に写る農地と工場（1950年代）

戸塚の歴史を研究している有馬さんのお話



全編は[こちら](#)



柏尾川周辺の工業地帯は、多くの人が働いていて、にぎわっていました。料亭で宴会をやっていたり、柏尾川に船を浮かべて楽しんだりしていたこともあったようです。

戦後、京浜工業地帯が復活して人口が増えると戸塚区や泉区のあたりは、中心部への野菜などの供給基地になりました。農家は、昼間に収穫した大根を、夕方取り入れて、夜中から明け方まできれいにして箱詰めして、朝は市場に持つて行くというような忙しい生活でした。

ちょっと昔の 戸塚のおはなし

戸塚駅周辺のうつりかわり

今では多くの人が利用する戸塚駅ですが、現在の姿になるまでに長い時間がかかりました。

1887
明治 20

戸塚駅開業



人力車が
写っているね！



古絵葉書に写る▶
明治・大正時代の
戸塚駅西口

1937
昭和 12

戸塚駅
東口開設



提供:坂本写真
▲昭和 30 年代の戸塚駅東口



横浜市史資料室所蔵資料
▲昭和 30 年代の戸塚駅西口

1969
昭和 44

戸塚駅
橋上駅完成



現在、東口にあるビルや歩行者デッキは
地下鉄と一緒に建てられました。



提供:坂本写真
▲建設中の東口のビル



提供:坂本写真
▲橋上駅になる前の戸塚駅西口

1987
昭和 62

市営地下鉄
戸塚駅開業



▲市営地下鉄開通時の様子



▲建設中の東口のビル



▲現在の戸塚駅西口



▲現在の戸塚駅東口

2010 年代、戸塚区総合庁舎
や周辺の歩行者デッキが
できて、西口は現在の姿に
なりました。

現在まで続く戸塚の歴史。
身近な地域にも、今では想像できないような
歴史やエピソードがあるかも。



とつかフォトコレクション
▲1965 年当時の戸塚大踏切



提供:坂本写真
▲昔の大踏切（年代不詳）



▲戸塚大踏切デッキ（2014 年開通）



とつかフォトコレクション
▲アンダーパス（2015 年開通）

かつて戸塚駅の北側にあった「戸塚大踏切」は、
「開かずの踏切」とよばれ、車の渋滞の原因となっていました。2015（平成 27）年に線路をくぐるアンダーパスが完成し、この踏切はなくなりました。現在は、駅の東西をつなぐ歩行者デッキに名前が残っています。

短い時には1時間のうち3分しか
踏切が開かなかつたらしいよ



「開かずの踏切」があるためにできた道路があるの？

当時の吉田茂首相は、大磯から東京に通勤する際、大踏切の渋滞に業を煮やし、バイパス道路を作らせたといわれています。この道路は、吉田元首相のニックネーム「ワンマン宰相」にちなんで「ワンマン道路」とも呼ばれています。



戸塚大踏切のそばで
暮らしていた
岡田さんのお話



全編はこちら

小学生のころに吉田茂元首相の車が大踏切で待たされているのを見かけました。その4~5年後にいわゆるワンマン道路ができたかな。この道路ができるまでは、箱根駅伝は大踏切の辺りでタスキをつないでいたよ。



提供:坂本写真

▲大踏切を通っていたころの
箱根駅伝の戸塚でのタスキのリレー

戸塚駅西口の開発

戦後の戸塚駅周辺には、多くの店が連なる商店街が発展しました。一方で、交通などの問題も生じたため、駅の東口と西口それぞれで再開発などが行われました。1962（昭和37）年から始まった新しいまちづくりは、約50年かけて完成し、今の戸塚駅西口の姿になりました。

戸塚駅西口の旭町通商店街（1986年）▶



横浜市史資料室所蔵資料

戸塚駅西口のうつりかわりをみてきた湯川さんのお話



私は戸塚町生まれ、戸塚小学校出身です。再開発頃から旭町通商店会の理事長も務めました。戸塚が好きだから、これからもまちを盛り上げていきたいです。



全編はこちら

戸塚郵便局の向かい、今はマンションが建っているところに当時はバスセンターがありました。



▲戸塚郵便局前にあったバスセンター



▲2025年

子どもの頃は今のフォーラムの辺りが全部田んぼで、よくザリガニを取りました。



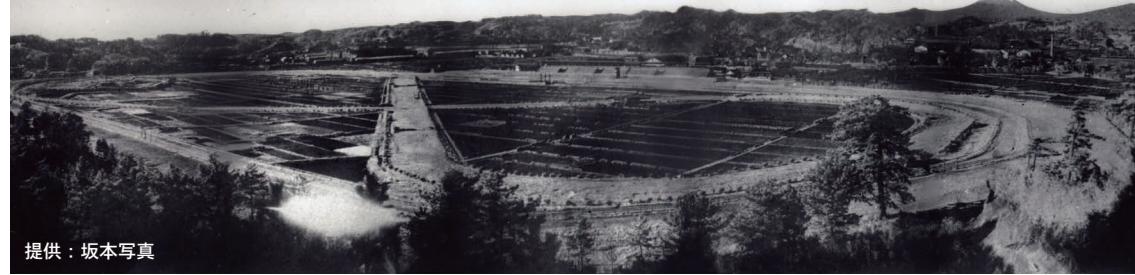
▲戸塚駅南方面（1964年）



▲ホームが橋の上まで伸びた現在（2025年）



▲1967年の航空写真



提供：坂本写真

戸塚に競馬場があった！？

1933（昭和8）年、吉田町（現在の日立製作所横浜事業所と東戸塚小学校）に、大船競馬場が移転してきました。戦後、吉田町から汲沢町（現在の汲沢団地）に移りましたが1950（昭和25）年には川崎に移転しました。



提供：坂本写真



提供：坂本写真

▲競馬場入りの人でぎわう戸塚駅東口（昭和14-15年頃） ▲競馬場で牛の品評会開催（汲沢町・昭和10年代後半）



▲川崎市に移転した戸塚競馬場で開催された「戸塚競馬」のポスター



出典：国土地理院



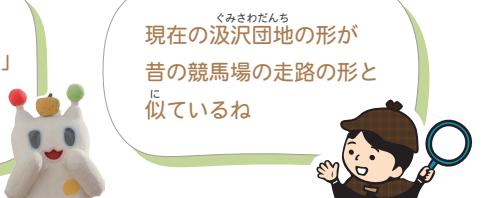
出典：国土地理院

汲沢町の競馬場走路
1946年

汲沢団地付近
2024年



川崎競馬では、
いまでも「戸塚記念」
というレースが開催
されているよ

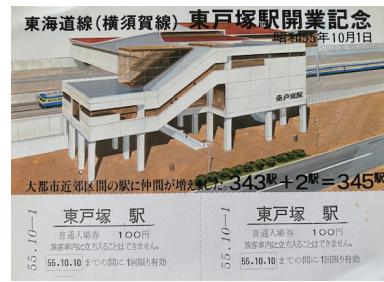


現在の汲沢団地の形が
昔の競馬場の走路の形と
似ているね

ちいき 地域みんなでつくった

ひがしどつかえき 東戸塚駅

東戸塚駅周辺は、もともと田畠や森林が広がっている地域でした。地元の悲願により 1980（昭和 55）年に東戸塚駅が誕生し、駅周辺のまちづくりが進められ、現在のように便利な地域になりました。



▲東戸塚駅開業記念の切符（提供：常盤欣二さん）



駅を作る呼びかけでは、10万5千人の署名が集まると
言われているよ。民間の会社も駅を作る場所やお金を支援
したんだって。まさに「みんなでつくった駅」だね！

戸塚にあった夢の楽園ドリームランド

東京オリンピックが開催された 1964（昭和 39）年、遊園地「ドリームランド」が開園しました。当時はホテルやプール、ボウリング場、テニスコートなどもありました。



▲ドリームランドとドリームハイツの航空写真

1970 年代に敷地の一部が売却されて分譲住宅「ドリームハイツ」ができました。2002（平成 14）年に惜しまれながら閉園したドリームランドがあった場所には、現在、横浜薬科大学と市立保野公園、市営墓地があります。シンボル的なタワーだったホテルエンハイアは、今も大学の図書館として使われています。



東戸塚駅周辺の うつりかわりを見てきた 常盤さんのお話



全編はこちら

東戸塚駅の開業は、地域住民の要望と企業の貢献により実現したものでした。現在の東戸塚駅のあたりには、大正時代は「武藏駅」という駅を設置する話もあったようです。もともとは畠や田んぼばかりの地域で、夜は螢をかき分けて歩くほどでした。

りんせつ 遊園地に隣接してつくられた 「ドリームハイツ」に お住まいの しまづ 島津さんのお話



全編はこちら

ドリームハイツに住み始めた当時、遊園地はまだ営業していました。息子はドリームランドのプールによく遊びにいっていましたよ。その頃は、遊園地跡地ということもあって、八百屋さんや魚屋さんなどの買い物できるお店はありませんでした。もともと大人数で暮らす世帯が多かったのですが、今ではひとり世帯も増え、福祉の充実した住みやすいまちになりました。